

きました。私も全国のフットパスの大会、おっしゃるように、熊本と、あともともと町田が会長市でありますので、町田でやったときの2回しか行ったことないですね。美里町のは非常に鮮明に覚えてて、あそこのすばらしいところはちゃんと会員制で美里町だけじゃなくて主に熊本市の会員が多いんですね。当時で会員が2,000人ぐらいフットパス会員というのつくってるんです、会を。それを定期的に毎月行っていると。いろんなコースを開拓しながら地域の人たちと、あと熊本はじめ、町外からの人たちに大勢来ていただいて、健康づくり含めて楽しんでると、これがフットパスであろうと。ですから、我々のほうは長井市の場合はフットパス協議会の菅野会長をはじめ、皆さん頑張ってくださいまして、市のほうでも頑張ってますが、せいぜい頑張って1回ですよ。これってあんまり意味がないなど。

ですから、健康スポーツ課にコロナ禍でなかなかできなかつたんですが、こちらと、それから体育協会ですね、法人化されて、あとは花スポ、以前から花スポのほうにやってくれないかというようなエールは送ってたんですが、なかなか取り組んでもらえないと。健康づくりには、あるいはスポーツに取り組むにはまずウオーキングからなんですよ。そこのところが非常に長井市の場合はおろそかになっていると。ですからそこをフットパスと併せてやるのが重要だと。そういったことをやりつつ、長井市だけじゃなくて、美里町の例のように、この辺ですと山形市とか仙台市とか新潟からも会員になる人いますよ。そういったことをしっかりやった後に全国大会をやるということが意義があつて、単発的にやってもこれは私は残念ながら、PR効果はあるかもしれませんが、実がないと思ってますんで、そこのところを見極めてやるべきじゃないかなと。ただ、浅野議員おっしゃるように、やりたいことはやりたいと。でも、

やるんなら成果をきちっと上げる、そんな考え方で今後検討してまいりたいと思いますので、ぜひいろいろご提言をいただければと思います。

○鈴木富美子議長 11番、浅野敏明議員。

○11番 浅野敏明議員 毎年全国で大会が開催されますので、来年はまだ2回目の美里町ですから、ぜひ市長のほうも参加していただければ盛り上がるんじゃないかと思っておりますので、そしてさらに長井市でも開催を具体的に検討していただければさらに盛り上がって多くの会員がフットパスに興味を持つかと思っておりますので、ぜひ前向きな検討をお願いしまして、質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

### 梅津善之議員の質問

○鈴木富美子議長 次に、順位12番、議席番号14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 おはようございます。

12月定例会最後の一般質問になりました。お疲れのところとは思いますが、最後までよろしくお願ひしたいと思います。

10月の半ば過ぎでしたか、地元の小学校の母親委員会の委員長さんに小学校で本の読み聞かせをしていただけないかなという話をいただきました。普通は母親委員会でするそうなんですけども、今回は地域の人にお願ひしたいんだなんていう話で頼まれて行ってきました。1時間ぐらいあるのかなと思って本を準備していったんですが、朝、学校に行ったら、10分ですとこう言われて、10分など言いながら、何を讀んだらいいかなとふと思ったんですけども、ちょうどその週の頭に議会運営委員会で愛媛県西予市のほうに視察に行ってきたときに頂いた議会だよりの一番裏に中学生の将来の夢ということで

載っていた文章を読ませていただきました。その子は将来看護師になりたいんだということで、自分の境遇から患者さんを助けたい、手助けしたいなんていうことを夢として書いていたことを読ませていただきました。私、自己紹介をして、農業しながら議員をしてる梅津善之ですなんて言って、私、知ってる人なんて聞いたら誰もいませんでした、残念ながら。29名だかたしかいたと思いますけども、そんな話をさせていただいて、子供たちに将来の夢って大事だよなんていう話をさせていただいて、みんななりたいことあるとか聞いたら、うわっと手が挙がってきてすごうれしかったなと思ってます。先生方には本当に私の拙い話で申し訳なかったなとは思っておりますけども、子供たちに生き生きと私の話を聞いていただいて、自分の夢を語っていただいたのは本当にうれしかったと思いますし、漫画家になりたいとかサッカー選手であるとか、それぞれすごい夢を持ってるのがたくさんいたことを今ふと思ったところでございまして、残念ながら農業したいとか政治家になりたいなんていうのはいなかったのはふと残念に思ったところでございます。

それでは、通告に従いまして、地域農業の現状と担い手という項目から入らせていただきたいと思えます。

過日も農作物の今年の大変な状況、鈴木悟司議員、竹田議員からもお話があったと思えますが、私からもちょっと併せて話をさせていただきたいと思えます。

例年にない猛暑、酷暑だったと思っておりますし、通念考えられないような状況が今年度あったんだなんて思っております。昨日も1等米比率のお話でございましたけども、はえぬきが53%、つや姫が70%、これは長井市内の1等米比率、12月の5日現在ですけども、雪若丸だけが94.3%と高く、コシヒカリで26.2%と非常に低い。山形県は先進的ですし、はえぬきや

つや姫、雪若丸も暑さに耐性がある品種として開発してきた経過がある。それにもかかわらず、はえぬきだと53%の1等米比率だというのが非常に残念だったなと私も思っておりますし、自らも作っておきながらそのような結果を受け止めなければならないことを本当に一年を通じて悔しい思いをしたなと思っております。

さらには、12月2日には山形県の1等米比率47.4%という数字で出ておりました。それは10月末現在の数字でありまして、長井市では過日もご報告ありましたが、JAおきたま管内全体では60.1%、長井地区では62.5%、これは各品目全体の1等米比率です。各地区ごとを調べてみますと、突出して西根地区が83.9%とすばらしくよくて、あとは中央地区、平野地区が50%台、あとその他の地区は50%を切るような状況でございます。

1年かけて土づくりをしながら秋に収穫を迎えて、若干概算金が上がったとしても、非常に大変な年だったんだなということを考えておりますし、他作物を見ても、まず暑さに耐えられなくて枯れてくような状況がハウス栽培でもあったと思っておりますし、ミニトマトやキュウリさえも収量ががたっと落ちてくるような経過でございます。

野菜、現在は若干落ち着いてはきていると思えますが、大根など何度まいても芽が出ないような時期、9月が相当暑くて発芽しない時期もあったようですし、発芽しても普通に成長できるような期間が短くて、すぐ入ったり、すらっとした大根にならなかったななんていうことをお聞きしますし、ただ一つ1年を通してよかった、1年を通してというかな、よかったのはスイカですよね。価格も非常によくて、品質もよかったということがあって、作物的にはほかのものがなかなか育たない中で、スイカは値段も成育もよかったなんてお聞きしましたし、果樹も開花時期の凍害から収穫まで合わせても相当な

打撃を受けているというような状況もあります。その辺を踏まえて、農林課長に今年度の状況をどのように把握してるかお聞きしたいと思います。

○鈴木富美子議長 梅津浩一農林課長。

○梅津浩一農林課長 本年は7月下旬の梅雨明け以降から9月にかけて高温、少雨による記録的な猛暑となりました。8月1カ月間の観測地点の結果を見ますと、長井市の平均気温は27度で平年よりプラス3.2度、降水量が76ミリで平年比47%となっております。このため、農作物にも大きな影響があり、米については10月25日現在の置賜地域の水稻の作況指数は100の平年並みでしたが、水稻ウルチ米の玄米の1等米比率は、11月15日現在、平均で約66%と前年同期と比較いたしまして30%程度低下しております。要因として、高温、少雨の影響で、白未熟粒が多く発生したことで例年にならぬ品質の低下となりました。

このほか果樹においては、高温、少雨の品質低下と併せて10月6日の強風による落下による収穫量低下の被害が発生しております。野菜ではアスパラガスの奇形の発生、キュウリの曲がり果や芯焼け、枝豆の落下が確認されております。果樹では、リンゴの着色不良、日焼け、小玉傾向、大粒ブドウの日焼けが発生しているほか、花きでは生育不良、生育停滞を確認しております。大豆については品質や収量の低下が確認されており、被害状況を調査中でございます。

今後も温暖化による高温や渇水被害をはじめ、様々な異常気象が発生する可能性があります。高温耐性品種の導入や高温障害に対応した生産体系の確立が必要であると考えております。収入減を補填する収入保険の加入や稲作中心の農業者が加入する収入減少影響緩和対策への加入など、セーフティーネットの加入を推進していきたいと考えております。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 本当に大変な1年だったなと振り返るところでございますし、最後、大豆の話がありましたけども、今、収穫作業はほぼ終わって、乾燥調製をしているような状況でありますけども、丸々と太った大豆になってない奇形をしてたり、皮が切れたりということで、収量、品質も非常に悪いというような状況であることをまずお伝えしなければならないなと思いました。

2番目に移ります。畜産関係も価格なり肥料や飼料の高騰などで非常に経営が圧迫しているような状況を一昨年から引き続きあると思っておりますけども、現在の状況はどうでしょうか。昨日なんかは肥育農家との懇談会があったとお聞きしておりますが、農林課長の見解はどうでしょうか。

○鈴木富美子議長 梅津浩一農林課長。

○梅津浩一農林課長 市内の畜産経営体制につきましては、例年2月1日現在で調査を行っている家畜飼育頭数調査の数値から、平成30年と令和5年を比較しますと、乳用牛が354頭から283頭、肉用牛が907頭から882頭と減少しております。子牛価格については、令和4年5月に下落し、その後、回復傾向にありましたが、直近は黒毛和種、交雑種が低下傾向で推移しております。配合飼料価格は低下傾向には移っておりますが、依然として高水準となっており、経営を圧迫している状況であります。米沢牛の枝肉価格は上昇傾向で推移しておりますが、そのままの価格を維持しております。米沢牛のブランドの確立として、昨日の米沢牛枝肉共進会から生後月例を33カ月以上のものとし、生産者の努力により品質や価格の向上に取り組まれていると認識しております。

酪農に関しましては、販売収入が変わらず推移する一方で、生乳1キログラム当たりの生産コストは配合飼料をはじめとした飼料費の高騰等により増加しているため、所得は減少傾向で

厳しい状況が続いていると認識しております。

議員がおっしゃった昨日の米沢牛振興部会との会合の中では、米沢牛は比較的高価格で取引されているものですから、昨日の結果は今日の山形新聞にも平均で180万円を超えるというようなことも載っておりましたので、米沢牛の生産者については比較的良好傾向になっていると理解しております。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 そうですね、本当に米沢牛のブランドというのありがたいなと思っておりますし、生産者も、頭数は減ってるようでございますけども、厳しい経営の中でも何とかやりくりをしているような状況であると思えますし、何といたっても酪農家が大変だというのはこの地域に限らず全国的なものだと思っております。牛乳自体の価値を上げることとか、様々な検討がなされるべきだと思っておりますけども、決して経営的に楽な状態ではないんだなということを改めて認識したところです。

3番目の質問に移ります。今は飼育頭数の減少なんていうお話もございましたけども、兼業農家が多い時代から今は集約営農であったり専業農家、そして農業法人など各地区で集約した農地を一手に引き受けてやっている農業法人であったり株式会社、さらには地域の集落営農、もちろん一個人として大規模にやっている方とかいます。ただ、そういった中で、なかなか大変になってくるのは、水路であったり農道であったり、全体の中で維持しなければならないことがそういう担い手や農業法人、株式会社も含めた農業生産団体といいますかね、そこに集中してくるような状況があると思えます。ぜひこの辺を地域全体で考えていかなければならないなと思いつながらの課題だと私は思っているんですけども、現在の状況と考え方ございましたら、農林課長、お願いします。

○鈴木富美子議長 梅津浩一農林課長。

○梅津浩一農林課長 今後、農業従事者が大幅に減少することが予想される中で、現在よりも相当少ない農業者が食料の安定供給を担っていかねばならない状況にあります。安定的な農作物の生産には、集落の水路や道路の維持は重要であり、農業生産活動が維持されるよう、用排水路等の生産基盤の適切な維持管理を図る必要があると考えております。現在の維持管理は土地改良区の管理会のほか、多面的機能直接支払交付金により、農業者や地区住民が主体となって維持管理が行われております。地域計画の作成を通じ、地域農業の維持、発展に向けて多様な担い手の育成のための基盤づくりや育成確保を図り、農産物の生産基盤の維持や農業の発展を図ってまいる必要があると考えております。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 私自身も、たくさんの小作農家という言い方がどうかですけども、離農された方から農地を引き受けて耕作をしているわけですけども、あまり地域の方に迷惑をかけないようにとそっと朝早く起きて草を刈りに行ったり水路の掃除をしたりしてるわけですけども、とあるところから、誰だ、あんな朝早く草刈りしてんのはと苦情が来るんですよ。それ昨日まで一緒に農業してましたよねって私はすごく言いたいですけども、辞めてしまうとどうしてもそういう感覚になるのかななんて思いつながら、次の日、私、すみません、ちょっと朝早く草刈ってましたなんていうことを言って謝りに行ってきたことが今年の夏ありました。何も悪気があって言ってるわけではないかと思えますけども、地域の協力っていいですかね、地主、小作とか法人とかなんかに限らず、みんな地域を維持していくんだという感覚にならないと、多分受け手もすごく大変な時代に入ってきてるんじゃないかなと思った次第です。ぜひ今後いろんな検討をしていく中で、地域の協力なんていうことを私自身も話していきたいも

のだなと思ったところで質問させていただきました。

あと、もう1点、4番目に移ります。畑地化促進事業の経過はということで、一昨年から出ております畑地化促進事業の本市での採択の状況であるとか、現在申請の状況であるとかということをおっしゃって教えていただきたいと思っております。

○鈴木富美子議長 梅津浩一農林課長。

○梅津浩一農林課長 畑地化事業につきましては、今年4月12日に47件の申請を行いました。6月12日に配分予定者として2名の内示があり、残りの45名は配分保留ということで採択が保留となりました。その後、申請資料や事業要件を満たしていないため、6月27日に配分予定者1名について申請を取り下げました。その間、随時、関係者に会議や説明会を行い、国や県からの情報を共有して申請者等に通知を行っております。その後、国の補正予算が決まり、畑地化の予算が確保され、配分保留者についても申請を行うことになりました。当初の47名からは大幅に取下げがありまして、現時点で18名、3,215万3,500円、1,865アールの申請があり、11月13日に採択の通知がありました。交付は早ければ12月26日の予定となっております。

このほか、長井市営農推進協議会が主体となり、自主的に長井市5年水張り問題対策委員会を設置し、課題の整理や方向性について検討している状況です。また、国や県からの情報を会議や説明会等を活用して農業者に伝えてまいります。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 当初、2名で、その後、補正予算で採択になったなんていう話ですが、取り下げたというお話がありましたけれども、それは法人なり個人の様々な事情がありますけれども、それは具体的に何か取り下げた理由なんかあるんでしょうか。

○鈴木富美子議長 梅津浩一農林課長。

○梅津浩一農林課長 地権者の関係やら周りの農業者と調整した結果、畑地化した後、水田活用交付金、出なくなった後のことを考えまして取り下げたようでございます。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 そうですね、その後のことを考えると複雑な思いで申請をしたり畑地化した時点でその後の作物であったり検討しなければならぬ課題がたくさんあって、単純にいかない状況であるということは私もそのとおりだと思いますし、5年水張り問題とかを積極的に膝を詰めて農家自身で話していただいて様々な結果を出していただきたいと思っております。

5番目に移ります。人・農地プランから移行する地域計画作成の進捗状況はということ、ここが一番大事なことだと思っております。地域で今後5年間、この先10年間、離農するとか、もっと規模拡大をして進めていきたいとか、様々な個々の経営や法人の経営があると思っておりますし、それを地域と一緒に話していただくことが非常に大事だと思います。特に話で出てくるのは、行政に土地改良してほしいとか、そういう話がよく出てくるんですけども、中身はそういうことじゃなくて、みんな、じゃあ、大根作りましようでも大豆を促進しましようでもいいんです。そうやって地域を守り立てていく作物、あそこ、私、作ってたけども、おまえのほうに近いからそっちでしましようとか、そういう全体の中の話をお膝を詰めて話ができる状況があると私はいいと思っておりますので、その辺も含めた進捗状況を教えていただきたいと思っておりますし、ちょうど今、各地域にこれから地域計画策定のお話をしましようなんていうお話が出ておりますので、その辺も含めてお話いただければありがたいと思っております。

○鈴木富美子議長 梅津浩一農林課長。

○梅津浩一農林課長 地域における農業の将来の

在り方などを明確にすることを目的とした従来の人・農地プランは、令和5年4月の農業経営基盤強化法の改正により、地域計画として法律に定められ、地域での話し合いによって目指すべき将来の農地利用の姿を明確にし、農地の出し手、受け手の意向を踏まえて、10年後に目指す農地利用の姿である目標地図を添付することになります。

現状の本市の取組についてですが、既存の中央、致芳、西根、平野、泉、時庭、今泉、伊佐沢の8地区の人・農地プラン運営委員会に委託して、担い手や地域農業の課題を明確にするアンケート調査を地域の中心的な経営体を実施し、アンケート結果と現況の担い手の農地集積の状況を示す現況地図等を基にした地域計画を農閑期となる12月、今月に開催する準備を進めているところでございます。

今後は各地区で開催する地域協議を踏まえ、各地区の特性を生かし、地域の担い手を明確にすることで、地域資源である農地の保全、有効利用を国の支援制度等を活用しながら推進していく所存であります。

また、10年後の農地の担い手を定める目標地図につきましては、農業委員、農地利用改善組合との連携の下、策定を進めていくつもりです。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 ぜひ膝を詰めて腹を割った話をできる会合にさせていただきたいものだと思いますし、温暖化とか気候変動で作物がなかなかうまくいかない中でも、いろんなものに挑戦できる、それも地域でそういう話ができる土台というかね、そういうことを大切に考えて進めていただければと思っております。

最後に市長に伺います。今後の農業生産を考える上で、担い手の育成と持続可能な農業生産とはということをお聞きしますけども、先日、若いと言っても40代ぐらいの農業者、地域の方に集まっていただいて聞きました。20代の農家

って平野さ何人いたんだいなんていう話になったときに、あそこさ、今3人ぐらい数えられたんですよね。40代からその上だとまだ若干平野地区も残っている農家の方がいるんですけども、20代だと3人かなんて話で、今後出てくるかどうかは別にしても、農業法人や個人で大きくやっているとところも含めて、これから地域に残って農業やりたいと思えるような地盤は私たち自分でつくっていかねばならないと私自身はそう思っております。魅力的な農業を目指しているんな作物に挑戦できる土台であったり、それを支える地域の全体の温かい目であったりすることが今後地域を残していけるような状況になるのではないかなと思っております。その辺の考えを踏まえて、市長のお考えをお聞きしたいと思っております。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答え申し上げます。

まず、その前に、地域農業の現状と担い手育成についてということで、様々な現在の長井市の農家経営の厳しさ、あるいは気候変動による影響の深刻さ、また、ちょうど世代交代というのも大きく変動してる真ただ中での農業の在り方について、様々な情報を私ども勉強させていただきまして、感謝申し上げます。

議員からございました今後の農業生産を考える上で、担い手育成と持続可能な農業生産とはということなんですけども、国の政策の中で我々行政と農家、切り離されてしまったんですね。ですから、我々地方自治体、都道府県の場合はもっといろんな権限が与えられてますけども、市町村については、どちらかというと国の農林水産省のほうのいろんな政策を同業者、個人、あるいは経営体も含めて国の誘導といいますか、臨むべき方向に進めるときに、同業者、経営体だけではできない部分を地方自治体で応援してくれというようなスタンスなんですけども、私どもも正直なところ全く国の政策の一方向的なことを

やらされてるという感があるわけですよ。しかも事務費がほとんど来ないと。それで国の仕事の下請をさせられてるという感が実は私個人も含めてほとんどの市町村長が感じていることだと思っています。

一方で、梅津議員がおっしゃることは本当にこれ今農業で頑張ってる人たち、とりわけ若い人たちは、本当に憤りっていますか、どうしたらいいか分からないと思います。七、八年前でしょうかね、東北農政局長が各都道府県に回って市町村長集まれと、意見交換しようというときに2回ぐらいありました。その後、全然そういう話はないんですけども、日本も例えば今までみたいに日本の経済力で海外から自分たちが必要とする農産物とか穀物も含めて有利に買えたという時代はもう終わってるわけですよ。買い負けてるんですよ。そういった中で、本当、日本の農業どうするかというところを何ていうんですか、我々、市町村長の意見も全く聞かないんですよ、我々、要望は出しますけどね。ですから、正直なところ、そういった中で、梅津議員からどう考えてるって言われるのは非常に苦しい。どちらかというと一緒にって国に物言うしかないかと、ちゃんと実態分かればよ。

しかも東北は東北、山形は山形、本当47都道府県全て違いますよ。ごめんなさい、時間ない中でいろいろ言っちゃって。例えばですね、姉妹都市である結城市、近郊農家、大都市のね、首都圏の近郊農家ですから、白菜も今回大変なようですが、トウモロコシなんかも含めて、億の年間の粗収入ある農家なんてごろごろしてるわけですよ。我々この東北では、あるいは東北でもね、仙台近いところは違うかもしれませんが。山形、置賜では考えられないですよ。それが一律に国ではいろんな政策やってくるわけですから、こんなの合うわけじゃないですよ、正直。そんなことの愚痴を共有させていただきながら、ちょっとお話をさせていただきます。

先ほど農林課長から答弁がありましたとおり、地域計画の策定に向けて、地域ごとに座談会を開催するなど準備を進めております。座談会は市内の6地区で行っており、これは議員ご承知のとおり、人・農地プランや地域計画に係る資料のほか、事前にアンケート調査を行い、地域の課題や現状等まとめた資料を使って説明や意見交換を行ってます。調査結果の中でも、現状の農地利用の効率の悪さ、労力確保への不安、担い手の高齢化への対応など、課題も表れていますが、スマート農業や駆除、施肥といった農作業を受託する事業体の育成、輪作体系を考慮した畑地化に向けた高収益作物の導入、農地集積や新規就農希望者の地区への受入れなどに対して、関心が高い記述がございまして、今後の座談会や来年度の地域計画の策定の取組の中で検討を進めてまいりたいと考えております。

今後も農業者が大幅に減少することが予想される中で、担い手だけでは地域の農地を守れない状況となっており、大規模な法人化の方向だけではなく、多様な担い手を含めて持続可能な農業の在り方を地域の皆様と共に考えていく必要があると考えております。

先月の末でございましたけれども、レインボープランを提唱されて、自らも農業者として頑張っておられる菅野芳秀氏がちょっと提案があるということでいらっしゃって、いろんな話をお聞きしました。まさに例えば今一生懸命農地を生かして個人で、あるいは経営体で集落で頑張っておられる農業者とは別に、生きがいとしての農業であったり楽しむ農業ということで、そういう結局高齢になってそれでもまだまだできるという人たちがそういった農地を特にレインボープランの循環の理念を生かしながら、補完して応援すべきだという考え方を持っておられるんですね。それを行政として市でもそういった農家の人たちの集まりをつくって頑張ってる専門農家の皆さん、法人、そういったところ

応援しようというような大変ありがたい提案がございまして、これは昨日もありました食育とか地産地消とか食農とかそういったところにもつながることであり、こういったところも我々行政でやらなきゃいけないことだな思っております。

今申しあげましたように、長井市では市民の皆さんの環境保全型農業への関心が高く、これにより環境負荷の低減、地産地消の意識の醸成につながり、長井市の循環型社会の形成と協働による持続可能なまちづくりが進んでまいりました。引き続き環境配慮型農業の推進もまた一方で進めながら、化学農薬、化学肥料の使用の低減やカーボンニュートラルなど、社会的、経済的課題にも対応した持続可能な農業を進めていく必要があると考えておりました、ぜひそういったことでサポートしてもらえるそういう農家の組織化も必要だなと思っております、なお、ちょっと疎遠になってるのが行政としてはどちらかという土地改良区なんです。土地改良区が例えば今、野川土地改良区さんのほうで草岡、それから成田のほうの経営体というか土地改良が進められているのでいいんですが、例えば白川土地改良区管内、あるいは白鷹土地改良区管内とかそういったところと大分開きがありますので、今後も特に長井市の場合は本来であれば稲作が一番適している環境なわけがございまして、それらについて、どういうふうにして今後よりコスト削減で省力化できるようなそういった応援できるか、こういったところも土地改良区、あるいはJAさんもなかなか厳しいんですが、この辺が非常に距離が今あるなど思っておりますので、我々長井市のみならず、特に置賜3市5町で連携しながらこういったところの関係性を深めて応援できるそういった体制をつくってまいりたいと思っております。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 地域の課題として地主、

小作といふかね、耕作している方だけでなく、地域の問題として一緒になって考えていきたいと私も思っておりますし、ちなみに私の地区もほとんど皆さん離農なされてるんですけども、いまだに実行長であったり防除班長であったり全然田んぼに関係ない方に担っていただいている。本当に感謝しなければいけないなと思っておりますし、でないと全部おまえが一人でしると、こういうふうな話になるんですよ。とてもそんなわけに私もいきませんので、全く関係なくて全然あれだけでも、手伝うからなんって言ってもらってる自分は幸せだなと思いつつ、その何倍も草刈り頑張ろうと思いつつ、でも、朝起きるとうるさいと、こう言われる現実には身にしみているわけで、なかなか暑いときに作業するのも大変で、草刈り作業なんか1時間、2時間でできるものでないの、ちょこちょこみんなで手伝っていただければありがたいなんていつも思っているところがございます。ぜひ地域計画の中で農業法人や大規模農家を支える地域であるような方向性、さらには様々な作物を挑戦できるような雰囲気をこれからの地域計画の中でそれぞれの地域で話し合っただければなと思っておりますので、併せてお願いをしていきたいと思っております。

次の質問に移らせていただきます。新産業団地の整備の進捗状況ということで、今年の3月に提出いただいた計画の状況について、産業参事に進捗状況をお知らせいただきたいと思います。

○鈴木富美子議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 新産業団地の整備の進捗状況につきましてですが、こちらにつきましては6月議会及び9月議会におきましてもご報告しているとおりに、結論からいいますと順調に進捗しているという状況でございます。

令和5年度の事業につきましては、地権者の皆様と関係者の皆様からご協力をいただきまし



て、用地測量、そして地質調査を進めております。また、実施設計につきましても8月に発注が完了しております。現在、造成計画を協議しながら進めていただいております。

農地関連の手続といたしましては、一番最初の農振除外の手続があったわけですが、公告縦覧期間、異議申立て期間も終了いたしまして、県からの本決定、11月29日付でいただいております。

また、国土交通省東北地方整備局山形河川国道事務所のご協力によりまして、現在、最上川の洪水対策として河道掘削を行っておりますけれども、そちらから出た発生土につきましては、長井南産業団地の造成用としてご提供いただいております。現在4か所にストックしているところでございます。加えまして、山形県置賜総合支庁西置賜地域振興局、西置賜河川砂防課からも置賜白川の発生土についてご提供をいただくということで現在進めております。

このように、今のところ順調ということですが、今後の予定としては、今設計中であります実施設計、こちらがまとまった段階で改めて具体的な今後の工事の説明など関係者の皆様に開催していくということで、現在、準備しているところです。この説明会を経て、令和6年度に農地転用の手続、そして開発行為の申請と向かっていきまして、その後に用地購入に向けた交渉ということで進めていきたいと考えているところでございます。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 順調に進んでいるということで、ほっとしておりますが、その当時の予算の中にも不動産鑑定予算もあったかに思いますけれども、結果などはもういただいているのか、産業参事にお伺いします。

○鈴木富美子議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 不動産鑑定の結果につつま

しては、こちらの鑑定につきましては、令和4年度事業で実施しております。令和4年度末に不動産鑑定結果はいただいておりますが、実はこの鑑定額を基に、全体の総事業費を概算で見積もっております。今年度の整備事業をその総事業費を基に進めているところでございます。

鑑定に当たりましては、近隣の不動産取引状況、近いところでは新潟山形南部連絡道路関連の国の買収単価などがありますが、そういったいわゆる近傍類似価格や場所によっては朝日幹線が通っておりますので、線下の部分について考慮した鑑定を行ったものでございます。

なお、用地の購入につきましては、令和6年度に計画しております。地権者の皆様との相談はこれからということにしておりますので、現時点で鑑定額についてはこの場では回答を控えさせていただければありがたいなと思っております。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 用地の交渉もこれからだということなので、分かりました。

あとは3番目です。この前の、議会と市民との意見交換会で豊田地区からも心配されて出ていたかと思えます。私この質問するのは2回目で、周辺環境の整備ということで、水路、道路、もちろん造成なりすぐお金がかかることだと思いますし、周辺に配慮した環境の整備というかね、そういうのが非常に大切なことだと思っております。せっかく誘致した企業が地域の人から喜ばれないなんていうことがあってはならないと私は思っておりますので、その辺も含めた周辺環境の整備の状況などを教えていただければありがたいですが、産業参事。

○鈴木富美子議長 赤間茂樹産業参事。

○赤間茂樹産業参事 新産業団地の周辺環境の整備ということですが、団地造成に当たりましては、単に造成するだけでなく、インフラの整備が必要になってきます。この計画案も含めて

現在は進めております。これは来年行います開発行為にも関係してきますので、現在しっかり実施設計の中で取り組んでいるものです。

まず、団地に隣接している市道、そして団地の中の市道というようなものがございますので、拡幅整備を計画しておりまして、具体例を挙げると市道舞田八景線、曲柳水木線につきましては、幅員を9メートルに拡幅する予定としております。そのほかの道路につきましても6メートルの幅に拡幅する計画で現在考えております。

また、上水道につきましては、団地内に消火栓なども設けなければならないということになりますので、水道管につきましては150ミリ管への布設替えを予定しております。このほか一番地区の住民の皆さんが気にしておられる排水の対策でございますけれども、下流域への影響が出ないように約1ヘクタール規模の調整池を設置することで今計画を進めております。

なお、これらの計画につきましては、現在、測量と実施設計が進行中でございますので、確定の面積ではございませんけれども、現地の高低差や流量の計算も行っておりますから、それらを基に詳細に積算を進めているところです。地域防災の観点からも地域及び関係各所と協議を進めてこれらの計画を進めていきたいと考えております。

このほか、環境整備といたしましては、当然、立地企業が出てくると電力の問題も生じますので、電力会社との協議も並行して行っているところです。

そのほか今年6月に長井市産業振興連絡協議会という組織を立ち上げました。この協議会の中でも企業が立地するに当たって周辺の環境はどうあるべきかということについても意見を伺いながら今進めているところでございます。こういったところも今後考えていきながら進めてまいりたいと思っております。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 ぜひ周辺の住民や多くの方のご意見を聞いて問題ないように進めていただければなと願うばかりです。

最後に市長にです。造成はなったけども、企業はというお話です。まだご公表できる状態ではないかどうか私分かりませんが、この辺の状況なんか市長からお願いしたいと思っております。

○鈴木富美子議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

現在、数社のほうで実際に契約をしたい、あるいは契約を考えているということで話は進んでおりますが、今の日本、あるいは東北のこういった新産業団地の需要度がという点でございますが、実は国のほうではご承知のとおり、サプライチェーンを再構築しなきゃいけないということで、九州のほうに台湾の半導体企業、次世代型の半導体の工場として数千億円ということで話題になりました。それが全国各地いろんなところが出ておりまして、東北でも仙台市の隣の大衡村に台湾の企業、7,000億円の規模で半導体を立地をするということなんです。県内では私もいろいろ今回の新産業団地の造成に向けて、今様々な造成やら販売をなさっている山形市、天童市、上山市等々、いろいろ情報を聞きました。ほぼ例えば上山、山形、天童辺りは造成するとすぐ決まるというぐらい非常に好調だそうです。ただ、じゃあ、その人員が確保できるのかということが一番問題なようでございますが、そういった意味ではそういう課題もありますけれども、概して現在はもう一回国内での製造拠点を見直すということで、国を挙げて様々な取組がされてるそうです。

先ほどの経済産業省はもちろんでございますが、実は赤間参事は説明はしなかったんですが、今回、別な会議で中心市街地の活性化の件で東北地方整備局の会合で意見交換をしたときに、長井市でこういった新産業団地の造成を18ヘクタールの分譲に向けて今、農振除外などの手続

が終わって来年度から工事に入る予定だと言ったところ、もしあれだったら、国土交通省でも国のそういった流れにに応じて、これから工事も進めてる途中でも補助対象にしますよというようなことで、対象事業費が4億円、5億円ぐらい、補助額も2億円から3億円ぐらい補助が見込めるようなそういった向こうから声をかけていただきましたし、非常にそういった意味ではいい時期の造成なのかなと思ってるところです。

ちょっと長くなって恐縮でございましたけれども、企業誘致につきましては、先ほど赤間参事からもございましたように、今年度、長井市産業振興連絡協議会を立ち上げまして、これまで2回会議を開催し、情報交換や意見交換を行っております。協議会の委員には地元企業の各団体、商工会議所の各部会、教育関係者等にも参加いただきまして、山形大学の山田教授に取りまとめをいただいているところです。

先ほど申しあげました数社、立地とか検討されてるということですが、それ以外にも地元企業で少し検討しているところなどもございますので、一番は地元の長井・西置賜の現在頑張っている地元の企業と同じように、それに資するような業種の企業誘致であったり、あるいは連携が取れるそういった企業をやはり私どもだけではなかなか難しいので、山形県、あるいは国のほうからもご協力いただきながら、誘致のご協力をお願いしていく予定でございます。

なお、長井市としての誘致活動としましては、先日、東京ビッグサイトで行われましたよい仕事おこしフェア、全国の信用金庫で構成する実行委員会が主催しておりますが、そういったところをはじめ、首都圏で開催されるやまがたビジネスセミナー、あるいは機械要素技術展などに赴きまして、出展されている首都圏企業に対し、長井南産業団地のPR活動をしております。また、山形県の産業立地室、これは県の企業誘致担当部署でございますけれども、また置賜総合

支庁にも誘致情報の協力をお願いしているところでございます。県からも産業団地計画地は置賜の中心であり、仙台、新潟、福島への交通の利便性から適している場所であると評価をいただいておりますので、よりよい企業の誘致に向けて進めてまいりたいと思います。

あと1分だけ、もう一つ実は西廻り幹線道路というのが長井市でもずっと課題になっておったんですが、国道287号による西廻り幹線道路については、県ともいろいろ協議した結果、これ難しいということで、私どもも断念しております。ただし、今泉を起点とする348号線というのがありまして、今回、正式にこれから決まるんでしょうけれども、来年の3月になると思いますが、新潟山形南部連絡道路の梨郷道路が今泉のところで現道とつながります。そうしますと、新山道が113号線になるんですね。現道は国道の別な国道、国道399号線とかという名称になって、それが起点のところから長井南バイパスも通ってずっと赤湯まで続くのかなと思いますが、ということになるんですね。そうしますと348号線が実は起点が今泉から山形までなんですね。そうすると、起点が新産業団地のところにならざるを得ないんです、399号線ですから。そうしますと、そこから新しく西廻り幹線道路って前にもお話したことあると思いますが、そして重要物流道路として県のほうでも今国で定めていただきましたあかしあ産業団地までの道路、これをぜひ新産業団地とあかしあ産業団地を結んで287号線につなげると。そしてそれが一方で山形市の西工業団地にあるスマートインター今造ってますが、東北中央自動車道の新たなスマートインターにそれをつなげるといういわゆる高規格道路の斜め線を我々狙おうと。西置賜というよりも置賜で高速道路、長井市は通ってないと、200メートルぐらいしか通ってないんですよ、はじっこを。それで通ったって言われたらとてもとても私は納得できな

いんで、長井市と白鷹町だけ通ってないんですね、通る予定もないと。ですからこれで高速交通ネットワークに結びつけてもらえるように頑張っていきたいと思いますので、ぜひこれも梅津議員からもお力添えをよろしくお願ひしたいと思います。

○鈴木富美子議長 14番、梅津善之議員。

○14番 梅津善之議員 ある意味チャンスなんですよね。人もいなくてという話なんです、会社とともに人も長井に来てもらえれば一番いいと思います。簡単なことではないと私も思っておりますし、私自身いろんなことを勉強してもなかなか企業誘致なんていうのは簡単にいくもんでないなというのは十分承知しておりますので、ぜひ一緒になって前を向いていきたいと思ひますので、今後ともよろしくお願ひしたいと思ひます。

○鈴木富美子議長 以上で一般質問は全部終了いたしました。

## 散 会

○鈴木富美子議長 本日は、これをもって散会いたします。ご協力ありがとうございました。

午前11時57分 散会